

福島原発事故が起きた地域のこれからを考える

中間貯蔵施設の現地見学と議論

担当：窪田亜矢 教授 (ayakubota@tohoku.ac.jp)
建築・社会環境工学科 都市デザイン分野

1. 講義の趣旨

2011年3月11日、東日本大震災が起きました。福島第一原子力発電所は水素爆発して大量の放射性物質が拡散しました。避難指示が発令されて今も帰還困難区域では立入が制限されています。

地震で壊れた原子炉は廃炉にすることになっています。また、放射能汚染されたモノを収集保管している中間貯蔵施設は、最初の搬入から30年すなわち2045年3月には、すべて汚染物質を搬出することになっています。しかしこれらの見通しはいずれも不透明です。

こうした状況をふまえて、本研修では、NPO法人福島ダイアログが開催する現地視察とダイアログの場に参加して、さらに必要な情報収集をふまえて履修者全員が発表し、その議論を通して、自分の考え方を持つこと、そしてそれを深めることを目的としています。

2. スケジュール(集中)と履修人数

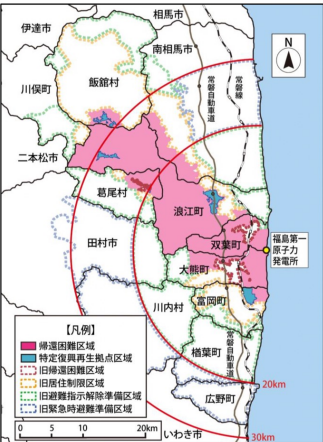
- ① 事前準備**
後述の中間貯蔵施設見学のために、個人情報提出する必要があります。履修が決まった人は、決まったらすぐに窪田まで必ずメールください。
- ① 10月1日(火) 16:30-18:00**
青葉山キャンパス人間・環境系 F01教育研究棟 5階 509
川内キャンパスからの移動時間調整
- ・ 講義概要
 - ・ 原発事故という災後について講義
- ② 10月12-13日(土-日)**
・ 第26回福島ダイアログに参加
現地までの交通費・宿泊費・参加費は各自で負担
<https://fukushima-dialogue.jp/archives/2444>
- 12日：中間貯蔵施設の現地見学
13日：浪江か富岡で終日研究会参加
- ③ 11月1日(金) 16:30-18:00**
青葉山キャンパス人間・環境系 F01教育研究棟 5階 509
川内キャンパスからの移動時間調整
- ・ 現場に行ってみて話をして考えたことを、各自が考えをまとめてレポート作成、パワポなどを使って発表、全員で議論
 - ・ 一人の持ち時間は、履修人数(上限**10名**)が決まってから決定

おまけの自己紹介

地域の在り様をデザインする研究をしています。デザインとは、今とは異なる姿を構想して実現する技術です。

地域を少しでも理解するために、現場に行き、そこに身を置き、じっと見たり聞いたり話したりします。机に戻って関連する論文や書籍を読んだり、情報を収集したりします。そして現場に提案したり、住民の方々と一緒に実践したりもします。そしてまた軌道修正です。重要なことは、その過程で、地域住民の方を含む様々な方と意思を交換することです。

そのような地域デザインの方法を、体験してもらえたらと願っています。



中間貯蔵施設に立ち入る危険性を十分検討して参加の決断をしてください。原発被災地は他にもあります。無理のないよう。